※令和３年度以前入学生用

２　地理歴史・公民

学校番号	T2101

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	現代社会※	単位数	２	年次	１
使用教科書	高等学校新現代社会(帝国書院)						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

現代社会は、私たちが生きる社会の中で起こっている問題を考えることを通して、社会への理解を深めることを目的としています。そのため、教科書の内容に加えて、身近な事柄や日々のニュースも題材に取り上げていきます。日々の出来事、ニュースに気を配っておくとより充実した学習ができます。自由で平和な現代社会をどのようにして作り、守っていくかを考えることが現代社会を学ぶ大きな目標です。そのために必要な力を多くの情報の中から自分で何が正しいのかを判断したり、社会の問題や課題を考えたりして身につけていきましょう。

２　学習の到達目標

・社会に起こっている問題や課題に関心をもち、主体的に考え、自らの考えを表現することができる能力を身につける。

・考えたり、判断する際の手がかりとなる情報・知識・社会的ルールなどを様々な角度からみることができる。

・現代社会の諸課題について多面的、多角的に考察し社会の合意形成と解決に向けての構想を自分なりにまとめることができる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代社会における国内外の諸課題について関心を持ち、意欲的に追求するとともによりよい社会の実現のために積極的に協力する態度を身につける。	現代社会の諸課題について多面的、多角的に考察し、社会にとってもっともよい判断は何かをまとめ適切に表現することができる	現代社会に関するさまざまな図表から適切にデータを読み取り多様な意見を判断する根拠として積極的に活用する。	地域や国の違い、人による立場の違いを十分に理解し、現代社会の諸課題を解決するために必要な知識を身につける。
評価方法	学習態度 ノート記入 授業での発言	学習態度 ノート記入	ノート記入 課題	定期考査 課題

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
中間テストまで	現代社会の諸課題とそのとらえ方	・現代社会の見方・考え方 ・現代社会の諸課題 ・青年期の意義 ・よく生きるとは	○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○	○ ○	a:現代社会の諸課題について関心を持ち、考えを深め多角的に検討しようとしている。 b:現代社会の諸課題解決に向けての様々な考えを自分なりにまとめ表現できる。 c:現代社会に関する様々なデータを正しく読み取り、判断の根拠に利用できる。 d:自分以外の様々な立場の人の意見を理解し、現代社会の諸課題解決への正しい知識を身につけている。	定期考査 ノート記入 課題
期末テストまで	現代社会のしくみと私たちの行き方 共に生きる社会をめざして	・民主社会の原理と日本国憲法 ・日本の政治機構と政治参加 ・市場経済のしくみ ・豊かな社会の実現をめざして ・国際経済の動向と貧困解消 ・国際政治の動向と平和の追求	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	○ ○	 ○ ○ ○ ○	a:現代社会の政治や経済のしくみに関心をもち、諸課題解決のためにどのような問題があるかを積極的に考える。 b:現代社会の政治や経済のしくみから見た諸課題解決に向けての様々な考えを自分なりにまとめ表現できる。 c:現代社会に関する様々なデータを正しく読み取り、判断の根拠に利用できる。 d:国や地域による政治・経済のしくみの違いを正しく理解し、現代社会の諸課題解決への正しい知識を身につけている。	定期考査 ノート記入 課題
後期は実施しない								

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。